

今回の探検先は…

**KOKUYO**  
 コクヨ 大阪ショールーム  
<http://www.kokuyo.co.jp/>

大阪市東成区のコクヨ本社オフィス近くに1978年開設。1階にテーマ展示フロア、2階にオフィス家具展示フロア、3階に公共施設家具展示フロアがあり、高機能と優れたデザインが融合した、進化していくオフィスが体験できる。また、小学生以上を対象に、ユニバーサルデザイン・環境などを切り口にした校外学習プログラムを展開している。

●探検実施日:2010年8月17日(火)

#### ◆◆◆働くイメージをふくらませて さあ、探検に出発だ

今回、しごと探検隊が向かうのはコクヨ大阪ショールーム。子供達に身近な文房具や、オフィス家具が展示されている。アイテムに集合した隊員は16人の小学生。



初めて会う仲間と、いっしょに、働くことについて考えた。「なぜ、働くのかな?」の質問に、「お金を稼ぐため」「家族を支えるため」「みんなのため」と意見が飛び出す。探検先で知りたいことを聞いてみると、仕事のやりがいや、開発にかかる時間(一番売れている商品のことなど)。それぞれが質問をノートに書き込み、さあ、今から探検だ。

#### ◆◆◆会社で働くことと 100年企業の歩みを知る



入社以来さまざまな仕事を経験してきた尾方さんもその経験を語り、一つひとつの仕事に一生懸命取り組んだり、組み立てることで、可能性を無限大にする教えた。会社で働くことの大変さと可能性を開くのは自分だというメッセージを、子供達はしっかりと受け止める。

質疑応答では質問が相次いだ。富山の国の誉れ「国誉(こくよ)」からなる社名の由来や、会社の歴史、ロングセラー商品キャンパスノートがこれまでに20億冊売れたことなどを知り、歴史ある企業のすごさに感心する。

#### ◆◆◆公共施設家具や オフィス家具の快適性を体感



セミナールームを出た子供達が、まず向かったのは3階の公共施設家具展示フロア。空港やスタジアムの椅子、福祉・医療施設などの家具が並び、その一つ電動昇降診察台を体験する。患者に負担がかからないように音もなくやさしく上がる診察台に、驚きの声があがる。続いて2階のオフィス家具展示フロアを見学。「社長の椅子に座りましょう」との尾方さんの声で、一斉に役員室用家具を指す子供達。重厚感ある革張りの椅子に座り、しばし社長気分を味わった。

## モノづくりの世界と出会い、 働くことの大切さを実感。

#### ◆◆◆失敗が成功を導く モノづくりの世界をのぞく

105年の歴史を持つコクヨグループは、「商品を通じて世の中の役に立つ」という理念のもと、ノートなどのロングセラー商品を開発してきた。コクヨ大阪ショールームでは、そうした製品を触って聞いて体験できる。ここで校外学習プログラムを手がける尾方さんが、子供達を迎えてくれた。

最初に案内されたのはセミナールーム、席に着いた子供達は、壇上へ下りてきたスクリーンに注目する。映し出されたのは「プニョプニョピン 開発ストーリー」だ。尾方さんは「これは指先に針が触れにくい安全・快適な画びょうのお話です。開発者はたくさんの失敗作を重ね、1つの成功作に辿り着きます」と笑顔を向ける。モノづくりの世界に子供達が引き込まれていく。



#### ◆◆◆触って聞いて、体験! 働くことの大切さを理解する

1階のユニバーサルデザインコーナーでは、中央のテーブルに置かれた針なしステープラー※に、子供達の視線が集まった。刃が穴を開けると同時に、紙を折り込み、切れ目に差し込む様子を見て、「すごい!」という声があがる。他にもプニョプニョピンをはじめ10点ほどの製品が並び、使い心地を確かめ、納得する顔、思索する顔など、それぞれが考えを巡らせる。アイテムに戻った子供達は、探検を振り返り感想や意見を話し合った。子供達は、モノづくりを通して、人のために行動し、働くことの大切さを理解したようだ。近い将来、モノづくりの国ニッポンを背負って立つ未来の開発者が、隊員の中から生まれるのではないかと、期待に胸がふくらむ探検だった。



※針なしステープラー／針を使わず紙をとじる新商品



#### ◆◆◆開発に2年、ユニバーサル デザイン製品の誕生秘話

コクヨがユニバーサルデザインを、開発の柱に置いたのは98年。プニョプニョピンの開発は翌年から始まり、開発者は「針が剥き出しにならない、落ちた時に針が上を向かない、抜きやすい」ことを条件に掲げ、試作品を作った。スクリーンに3つの試作品が映し出され、その一つを指して尾方さんが質問する。「どうしてこれは失敗作になったのかな?」子供達は使う人の身になって考え、ひらめいた隊員が手を挙げる。「針が剥き出しになっているから」との答えに「正解です」と尾方さんが目を細める。

2年かかったという開発で、最も時間を費やしたのは素材選び、有毒ガスを出さず、赤ちゃんが誤って口に入れても害のないプラスチックを採用した。こうして誕生したプニョプニョピンは、世界中で評価され、現在ニューヨーク近代美術館に永久展示されている。



プニョプニョピン

### 感想コーナー

- 仕事をあきらめず、がんばって責任を持って最後までやることを教えてもらいました。
- いつも使っている物はいろんな人がたずさわっているんだと思いました。
- 働いてみんなの役にたつために行動することだと思った。
- 私が思っていた仕事は簡単だと思っていたけど、本当はむずかしいと思った。



コクヨ株式会社  
 広報部 尾方隆子さん

この度はコクヨ大阪ショールームにご来場いただきましてありがとうございました。「企業で働く人の話を聞こう、話そうセミナー」では、私自身の体験談をベースにお話させていただいております。相手が喜ぶ姿を嬉しいと感じる気持ちがあれば、いろんな人と仲良くなれる。困った時にアドバイスや忠告してくれる人もたくさんできる。無能になって聞き、無知になって教わる素直な心で自分を取り巻く環境を良い方向に変えていってほしいです。

#### ●「アイテムしごとと探検隊」ご協力をお願い

(株)アイテムでは、訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子供達が「仕事」について考える機会を一緒に提供していただけませんか?

お問い合わせは  
 「アイテムしごとと探検隊」事務局まで ☎0120-938-989